<考察と感想>

まず日本と韓国の文化、風習、環境、制度の違いに驚かされた。老人ホームの入所率が、ソウル市内で95%、地方では 70%。施設に親を預けないから預けられない環境がそこにはある。その中での施設運営は、明らかに日本の状況よりも過酷と言える。

プライバシーに対する考え方に違いを感じた。この施設では施設長の考えにより、韓国の他の施設よりもプライバシーを考慮し、監視カメラの設置は必要最小限にされていたが、居室にはカーテンがない。むしろカーテンをすることで、入所者にとってマイナスの感情が発生するのかと思うほどであった。

特殊浴室については、非常に簡便なもので、説明がなければ判らないほどである。ストレッチャー上に簡易浴槽（水深 20 ㎝程度）を乗せ、シャワー浴を中心とした入浴スタイルであった。

ボランティアの活躍が施設を支えている面がみられ、宗教（韓国カトリック）的な援助や軍隊により社会貢献、大学での活動へのポイント制など多面的に支えられているといえる。

他の施設でも感じたことであるが、施設のパンフレットが充実しており、事業活動のＰＲに力を入れられており、実践されている福祉活動に対する地域社会への理解の促進を図っている点と老人福祉に対する強い使命感、常に向上しようという意気込みが感じられた。

＜報告者＞

相馬明子（長生園）・竹田和哉（幸寿）・三好隆夫（ホーム太子堂）

前田幸英（あすか八尾）